

（2）特色ある教育活動

- ア 発達支持的生徒指導を実践するとともに、教職員同士が「学び合い、教え合う」文化を醸成してより良い四中風土を構築し、生徒の「学校とのつながり」の意識の向上につなげる。
- イ 生徒会、有志グループや個人による各種奉仕活動を通して、地域貢献及び感謝の心を体現させ、主体性や自己有用感等の非認知能力を育成する。
- ウ 旅行・集団宿泊的行事の計画を、3年間系統立てて資質・能力を育むという視点、教員本位ではなく学校運営協議会と協議するという視点を盛り込み立案していく。
- エ 第一学年において、年度当初の段階で、学年・学級を取り巻くより良い風土を構築するための活動として、四中スキルアッププログラム（K4-SUP）を位置付ける。
- オ 小中連携の取組において、交流学习として「修学旅行発表会」、「合唱コンクールリハーサル交流」、「図書を通じた（本のポップ紹介）小中交流」、「ペットボトルキャップ回収」、「小学校運動会の中学生ボランティア」、「クラブと部活の小中交流」、「小中合同落ち葉掃き」等の取組を充実させる。児童生徒、教員間の交流を活発化させながら、生徒の自己効力感や思いやり、協働性等の非認知能力を育成する。
- カ コミュニティ・スクール、保護者、四中円卓及び地域団体と連携した取り組みとして、「校内美化活動」、「図書館開放・子ども食堂の運営」、「市防災課と連携した防災訓練」、「地域スポーツクラス（野塩ファイターズ）と連携した四中杯」、「四小コミュニティ・スクールと連携した花火を楽しむ会」等の取組を行う。「生涯に渡って学び続ける力」「清瀬を誇りとし持続発展の主体者となる力」を養うとともに、地域貢献を通してやり抜く力や責任感、実践力等の非認知能力を育成する。
- キ 朝学習において、読売新聞の編集手帳ノートの活用（書き写し、要約、タイトルづくり）を通して、書く力を定着させるとともに文章読解力、情報収集力、情報編集力を育成し、時事問題に対する関心を高めながら認知能力を育成する。
- ク 校内フリースクール「ステップタイム」において「近隣大学生や地域人材との交流」、「幼児・高齢者への読み聞かせ活動」、「校内菜園の活用」等の多様な人間関係や体験を通して社会とのつながりを深めながら、関わる力や自己有用感、自主性を養う。清瀬ラボとの協働による体験授業（性教育等）や多様性理解研修（教職員・保護者対象）を通して、多様性を理解する力を育成する。